

日本産鳥羽蛾科の研究：(I) *Pselnophorus* 及び *Sphenarches* の二屬に就いて

堀, 浩
九州帝國大学農學部昆蟲學教室

<https://doi.org/10.15017/20812>

出版情報：九州帝國大學農學部學藝雜誌. 4 (3), pp.254-266, 1931-04. 九州帝國大學農學部
バージョン：
権利関係：



日本産鳥羽蛾科の研究

(I) *Pselnophorus* 及び *Sphenarches* の二屬に就いて

堀 浩

(第九、第十圖版附)

(昭和六年三月一日受領)

本邦産鳥羽蛾科 Pterophoridae の二屬 *Pselnophorus* 及び *Sphenarches* の分類學的研究の結果に就いて述べんす。尙又同研究中本邦に於て最も普通なる、且つ農業上の害蟲として知られたるフジメトリバに對し從來用ひられたる學名は、フキトリバの學名として採用すべきものにして、フジメトリバは分布區域非常に廣き *Sphenarches caffer* ZELLER と同定すべきものなることを認め得たるを以て併せて茲に報告せんす。

本文を草するに當り、貴重なる標本を寄與せられたる江崎教授並に、長久男、藤野政雄、橋本士郎、隼瀬正直、栗崎眞澄、松尾鎭信、中原孫吉、竹内吉藏、武谷直、安松京三の諸氏に對し深厚なる謝意を表す。又著者が本研究遂行中懇篤なる指導並に援助を賜はりたる、理學博士江崎教授に對し深謝す。

フキトリバ屬 (新稱)

Pselnophorus WALLENGREN.

Pselnophorus WALLENGREN, Ent. Tidsk., ii, ¹⁾ p. 96 (1881). (Haplotype: *brachydactylus* TREITSCHKE).

MEYRICK, Handbook, p. 437 (1895).

HOEMANN, Deutsch. Pteroph., p. 154 (1895).

MEYRICK, Trans. Ent. Soc. Lond., 1907, p. 491 (1908).

Id., Gen. Ins., C, p. 14 (1910).

Id., WAGNER's Lep. Cat., pars 17, p. 20 (1913).

NOHIRA, Ent. Mag. (Kyoto), vol. iii, pt. 2, p. 75 (1917).

BARNES & LINDSEY, Contr., iv, p. 361 (1921).

MEYRICK, Revised Handbook, p. 455 (1927).

Gypsochares MEYRICK, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 488 (1890). (Hoplotype: *baptodactyla* ZELLER).

TUTT, Ent. Rec., xvii, p. 36 (1905).

¹⁾ MEYRICK, BARNES & LINDSEY 等が "Ent. Tidsk. II." とせるは誤植なるべし。

Crasimetus MEYRICK, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 489 (1890). (Logotype: *brachydactyla* TREITSCHKE).

TUTT, Ent. Rec., xvii, p. 36 (1905).

特徴 前頭には毛塊なく、單眼を缺き、下唇鬚は中庸にして多少上向し、第二節は粗に鱗を被り、末節尖る。脛節距根は時に鱗にて太まる、後脛節の距は略等長。前翅は二分し約五分の三の處にて分る。(MEYRICK は殆んど中央より分るゝなせども本邦産は然らず。) II は IV と同處より發するか又は IV より出づ。III は IV より出づ。V, VI 甚だ短く、VIII は VII より出づるか之を缺く、IX 缺く、X は VII より出づるか又は同處より出で、XI は VII より出づるか又は分離す。

後翅は三分し、第三枝の後縁の縁毛中に黒鱗なし。II は室の $\frac{1}{2}$ の處より起る。III 缺く、V, VI 甚だ短く、VII は翅端に至る。

本邦には二種を産す。

フ キ ト リ バ²⁾ (Tab. 9, figs. 3, 4, Tab. 10, figs. 1, 2)

Pselnophorus vilis (BUTLER).

Aciptilus vilis BUTLER, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 594 (1881).

Alucita (*Aciptilia*) *vilis* MATSUMURA, Cat. Ins. Jap. I, p. 221 (1905).

Pselnophorus vilis MEYRICK, Trans. Ent. Soc. Lond., 1907, p. 492 (1908).

Id., Gen. Ins., C, p. 14 (1910).

Id., WAGNER'S Lep. Cat., pars 17, p. 21 (1913).

NOHRA, Ent. Mag. (Kyoto), vol. ii, Pt. 1, p. 38 (1916).

Id., Ent. Mag. (Kyoto), vol. iii, Pt. 2, p. 75, fig. vii (1917).

Gen. sp. TAKAHASHI, Sosai Gaichû Kakuron, p. 241, figs. 141, 142 (1928).

Etelastis sp. YANO, Hakubutsu no Tomo, Tokyo, x, p. 15 (1910).

Gen.?³⁾ *amurensis* CHRISTOPH, Bull. Soc. Nat. Mosc., p. 43 (1882).

體翅共に純白色にして、灰褐鱗を混ず。頭部は白色、前頭は黄褐色を帶び、頭頂には淡黄褐色の長毛を被る。複眼は黒綠色、觸角は白色、上面には各節の先端に黒褐點を有し、下面には黄褐色の細毛を有す。下唇鬚は白色にして僅かに黄褐色を帶ぶ。

胸部は白色にして褐色を帶ぶ。前肢は白色、基節、腿節、脛節の内側は黒褐色。中肢も白色、但し腿節の内側は黒褐鱗を混じ、脛節の内側、及び先端、距の上面は黒褐色。後肢

²⁾ 高橋 (蔬菜害虫各論 p. 241 fig. 141 (1928)) はフキトリハとなせども従来トリバとして呼ばて居るを以てフキトリバとせり。

³⁾ 余は直接見ざれば不明なり。

褐，脛節は内側は白色，先端及び外側は暗褐なり。脛節距は各内側は白色外側は暗褐色。後肢は脛節は暗褐，内側は白色を帯び，脛節は白色，但し基部より中央までの背面及び各脛節距根，脛節距は暗褐，跗節は白色なれども第一，第二節は暗褐色を呈す。

前，後翅並に縁毛は暗黒褐色。前翅は横脈上に) 状の白斑を装ひ翅室の中央より稍基部に近く，白點を有す。前片の前縁に於て基部，中央部及び先端に近く白斑を有す。之等の白斑の部分より起る縁毛は何れも白色，前片の後縁の中央より稍外方に小白點を有す。先端に近き白斑の部分よりは白色の縁毛を出す。後片は後縁の中央，先端に近く各一個の白斑を有す。後縁に於ては基部及び先端より稍基部に近き部分の縁毛は白色。前翅に於ては基部より前縁に沿ひ前片の中央より先端に至る部分に細長き白斑を粗生す。

後翅は暗黒色，中片の後縁の中央に於ける縁毛は白色なり。

前翅及び後翅の裏面は表面と略同様なるも，前翅中室の中央に近き小白點は之を缺き，後翅の横脈上に白斑を有す。

腹部は暗黒，白斑を混ず。腹部の基部の兩側及び腹部下面は白色。

本種は非常に個體により大小の變化あり，一般に雌は雄より稍大なり。雌雄 10 頭宛の測定の結果は次の如し。但し單位は mm.

雄			雌	
	體 長	翅 張	體 長	翅 張
平 均	5.12	14.10	5.73	17.25
最 大	5.70	16.00	6.50	18.00
最 小	4.50	12.00	5.70	16.00

食餌食物。未詳。

産 地——本州：岐阜（美濃）1♂，20. vi. 1919〔竹内〕。

九州：九重山（豊後）1♂，19. vii. 1929〔江崎，藤野〕；祖母山（豊後）10♂♂，1♀，31. vii. 1929〔安松〕；英彦山（豊前）1♂，20. viii. 1903〔江崎〕；曲淵（筑前）1♂，4. v. 1930〔安松〕；香椎（筑前）1♀，31. vi. 1929〔堀〕；犬鳴山（筑前）1♂，14. vii. 1829〔堀〕；高良山（筑後）1♂，11. v. 1930〔長，江崎，藤野，橋本，堀，武谷，安松〕；1♀，26. v. 1929〔江崎，藤野，橋本，堀，松尾，中原〕；若杉山（筑前）1♀，1♂，12. v. 1929〔堀〕；1♀，3♂♂，22. v. 1929〔堀〕；8♂♂，13♀♀，28—29. v. 1939〔長，橋本，堀〕；1♀，9. vi. 1929〔武

1929 [藤野, 堀]; 1♂, 7. vi. 1929 [橋本, 松尾], 若杉山 (筑前) 6♂♂, 16. v. 1929 [江崎, 堀]; 7♂♂, 22. v. 1929 [堀]; 1♂, 28—29. v. 1930 [長, 橋本, 堀]; 2♀♀, 9. vi. 1929 [武谷]; 1♂, 26. iii. 1929 [江崎, 藤野, 堀], 平尾 (筑前) 1♂, 17. v. 1929 [江崎, 堀, 松尾, 中原, 武谷, 安松]; 1♀, 21. v. 1930 [長, 江崎, 藤野, 堀, 武谷, 安松]; 1♂, 28. vi. 1930 [長, 藤野, 橋本, 武谷, 安松], 福岡 (筑前) 1♂, 1♀, 4. v. 1930 [武谷]; 1♂, 21. v. 1929 [安松]; 1♀, 1♂, 22. v. 1930 [堀]; 2♂♂, 30. v. 1929 [藤野]; 1♀, 8. vi. 1929 [堀]; 3♂♂, 14. vi. 1929 [江崎, 橋本, 堀]; 5♀♀, 5♂♂, 7. vii. 1930 [堀]; 2♀♀, 11. vii. 1929 [堀]; 2♀♀, 16. vii. 1930 [堀]; 1♂, 16. viii, 1923 [堀].

屋久島: 栗生, 27. iv. 1929 [竹内].⁴⁾

分 布——日本 (北海道, 本州, 九州, 屋久島); Amurland.

尙ほ野平氏 (27)⁵⁾ の目録には樺太 “Solowiyofka” をも加へられたり。之れ凡らく松村博士 (14) に依られたるものなるべし。松村博士は *Alucita (Acipitilia) vilis* BUTLER マダラトリバとして樺太 “Solowiyofka” より記録されたるも 同博士の最近までの著書に依れば之は明かにフジマメトリバに當るものなるべく, 余は暫く除くこゝこせり。

BUTLER の記載せし標本の type locality は東京にして, FENTON の採品に依れり。

シロフクロトリバ。(Tab. 9, figs. 1, 2, Tab. 10, figs. 3, 4, 5)

Pselnophorus japonicus MARUMO.

Pselnophorus japonicus, MARUMO, Journ. Coll. Agric., Imp. Univ. Tokyo, vol. viii, no. 2, p. 197, Pl. 3, fig. 10 (1923).

HORI & UMEMO, Mushi (Fukuoka), vol. iii, p. 9 (1930).

體, 翅共に帶褐暗黒色にして白斑を装ふ。

頭部は暗黒色, 僅かに褐色を帶ぶ。背面は先端黒褐色の白色の粗毛を以て被はる。下唇鬚は白色, 暗褐鱗を混ず。觸角は上面は暗褐にして各節に白輪を有すれども中央より先端に至る部分は殆んぞ暗褐色, 下面は褐色の細毛を密生す。複眼は黒色。

胸部は暗黒色, 僅かに褐色を帶ぶ。前肢は腿節, 脛節は暗褐, 後者は外側は白色, 跗節は外側は白色なれども先端の二節は暗褐, 内側は暗褐にして基部は僅かに白色。中肢は腿節は暗

4) 竹内吉藏氏の好意に依り同氏の標本を検するを得たり。

5) 人名の後に記せる括弧内の數字は参考文献目録の番號を示す。

褐、脛節は内側は白色、先端及び外側は暗褐なり。脛節距は各内側は白色外側は暗褐色。後肢は腿節は暗褐、内側は白色を帯び、脛節は白色、但し基部より中央までの背面及び各脛節距根、脛節距は暗褐、跗節は白色なれども第一、第二節は暗褐色を呈す。

前、後翅並に縁毛は暗黒褐色。前翅は横脈上に) 状の白斑を装ひ翅室の中央より稍基節に近く、白點を有す。前片の前縁に於て基部、中央部及び先端に近く白斑を有す。之等の白斑の部分より起る縁毛は何れも白色、前片の後縁の中央より稍外方に小白點を有す。先端に近き白斑の部分よりは白色の縁毛を出す。後片は後縁の中央、先端に近く各一個の白斑を有す。後縁に於ては基部及び先端より稍基部に近き部分の縁毛は白色。前翅に於ては基部より前縁に沿ひ前片の中央より先端に至る部分に細長き白斑を粗生す。

後翅は暗黒色、中片の後縁の中央に於ける縁毛は白色なり。

前翅及び後翅の裏面は表面と略同様なるも、前翅中室の中央に近き小白點は之を缺き、後翅の横脈上に白斑を有す。

腹部は暗黒、白斑を混ず。腹部の基部の兩側及び腹部下面は白色。

本種は非常に個體により大小の變化あり、一般に雌は雄より稍大なり。雌雄 10 頭宛の測定の結果は次の如し。但し單位は mm.

雄			雌	
	體 長	翅 張	體 長	翅 張
平 均	5.12	14.10	5.73	17.25
最 大	5.70	16.00	6.50	18.00
最 小	4.50	12.00	5.70	16.00

食餌食物。 未 詳。

産 地——本州：岐阜（美濃） 1♂, 20. vi. 1919 [竹内]。

九州：九重山（豊後） 1♂, 19. vii. 1929 [江崎, 藤野]；祖母山（豊後） 10♂♂, 1♀, 31. vii. 1929 [安松]；英彦山（豊前） 1♂, 20. viii. 1903 [江崎]；曲淵（筑前） 1♂, 4. v. 1930 [安松]；香椎（筑前） 1♀, 31. vi. 1929 [堀]；犬鳴山（筑前） 1♂, 14. vii. 1829 [堀]；高良山（筑後） 1♂, 11. v. 1930 [長, 江崎, 藤野, 橋本, 堀, 武谷, 安松]； 1♀, 26. v. 1929 [江崎, 藤野, 橋本, 堀, 松尾, 中原]；若杉山（筑前） 1♀, 1♂, 12. v. 1929 [堀]； 1♀, 3♂♂, 22. v. 1929 [堀]； 8♂♂, 13♀♀, 28—29. v. 1939 [長, 橋本, 堀]； 1♀, 9. vi. 1929 [武

谷]; 3♂♂, 26. viii. 1929 (江崎, 藤野, 堀); 2♂♂, 28. ix. 1930 [武谷].

屋久島: 安房一船行, 1♂, 7. viii. 1929 [堀].

種子島: 野間, 11. 14. vi. 1919 [丸毛氏(7)に依る]。

分 布——日本(本州, 九州, 種子島, 屋久島)。

本種の type locality は種子島にして, 丸毛博士の採品なり。

フジマメトリバ属 (新 稱)。

Sphenarches MEYRICK.

Sphenarches MEYRICK, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 8 (1886). (Haplotype: *synophrys* MEYRICK = *caffer* ZELLER).

MEYRICK, Gen. Ins., C, p. 6 (1910).

MEYRICK, WAGNER's Lep. Cat., pars 17, p. 5 (1913).

NOHIRA, Ent. Mag. (Kyoto), vol. iii, Pt. 2, p. 70 (1917).

Sphenarchis TUTT, Ent. Rec., vol. xvii, p. 36 (1905). (New Name for *Sphenarches* MEYRICK).

MEYRICK (18) の原記載には不完全なる處あり。其後同氏自身 (22) 訂正を加へしも尙ほ充分ならず。野平氏 (28) は氏の標本と一致せざることを指摘せられしも、其當時野平氏の標本は別種として取扱はれしため訂正せられざりき。

特徴。前頭には毛塊なく、單眼を缺く。下唇鬚は可なり長く、上向し、第二節下面の鱗片は僅かに突出し、末節長く稍尖る。脛節距根は鱗粉にて太まる。前翅二分し、中央より分る。II, IV は柄を有し、III, IV も亦柄を有し、(原記載には III を缺くをせり。) V, VI 甚だ短かく、VII は室角の下方より出で長し。VIII, IX は柄を有し、X, XI は柄を有するか合一す。

後翅三分し、第三枝は後縁の縁毛中に黒鱗塊を有す。II は中央に近く出で、III, IV は柄を有す (MEYRICK は III を缺くをなす)。V, VI 甚だ短かく、VII は第一枝の先端に至る。

世界に二種産し、内一種本邦に産す。 *Oxyptilus* に近縁なり。

フジマメトリバ。 (Tab. 9, figs. 5, 6; Tab. 10 .figs. 6, 7, 8)

(マダラトリバ)。

Sphenarches caffer (ZELLER)

Oxyptilus caffer ZELLER, Linn. Ent., vi, p. 348 (1852).

WALSINGHAM, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 279 (1881).

- Sphenarches caffer* FLETCHER, Spol. Zeyl., vi, 21, t. E., f. 8, 10, t. F. f. 1 (1909).
 MEYRICK, Gen. Ins., C, p. 6, f. 3 (1910).
 Id., WAGNER's Lep. Cat., pars 17, p. 5 (1913).
 NOHIRA, Ent. Mag. (Kyoto), vol. ii, no. 1, p. 37 (1916).
 FLETCHER, Trans. Ent. Soc. Lond., 1925, p. 609 (1926).
 Id., Trans. Ent. Soc. Lond., 1925, p. 611 (1926).
 Id., Trans. Ent. Soc. Lond., 1925, p. 623 (1926).
 MEYRICK, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 309 (1930).
Oxyptilus direptalis WALKER, Cat. Lep. Het., Brit. Mus., xxx, p. 934 (1864).
Platyptilia direptalis MEYRICK, Trans. Ent. Soc. Lond., 1907, p. 485 (1908).
Oxyptilus anisodactylus WALKER, Cat. Lep. Het. Brit. Mus., xxx, p. 934 (1864).
 MOORE, Lep. Ceyl., iii, p. 528 (1887).
 SWINHOE & COTES, Cat. Moths, Ind., Pt. v, p. 668 (1889).
Pterophorus diffusalis WALKER, Cat. Lep. Het. Brit. Mus., xxx, p. 945 (1864).
Sphenarches synophrys MEYRICK, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 17 (1886).
Oxyptilus Walkeri WALSINGHAM, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 279 (1881).
Sphenarches? sp., NOHIRA, Ent. Mag. (Kyoto), vol. iii, no. 2, p. 70, fig. iv (1917).
Alucita (Aciptilia) vilis MATSUMURA (nec BUTLER), Cat. Ins. Jap., I, p. 221 (1905) (part.).
 MATSUMURA, 日本害蟲目錄, p. 29 (1906).
 Id., 大日本害蟲全書, 前編, p. 488, fig. 173 (1920).
Aciptilus sp., NAGANO, 日本鱗翅類汎論, p. 260 (1905).
Alucita vilis MATSUMURA (nec BUTLER), 最近昆蟲學, p. 215, fig. 139 (1905).
 MATSUMURA, 應用昆蟲學, 前編, p. 530, fig. 267, pl. 20, fig. 23 (1920).
 MATSUMURA, 昆蟲分類學, 上卷, p. 216, fig. 253 (1907).
 MATSUMURA, 昆蟲學概論, p. 257, fig. 60 (1929).
Alucita vilis, MARUMO (nec BUTLER), 實用昆蟲學要義, p. 288 (1923).
Alucita sp., MARUMO, 日本産昆蟲類科の檢索表, p. 113 (1925).
Alucita vilis TAKAHASHI (nec BUTLER), 蔬菜害蟲各論, p. 420—421, fig. 243 (1928).
Gen. sp., NAWA, Insect World (Gifu), vol. ii, p. 454—455, pl. 11 (1898).

頭部、胸部は黄褐乃至褐色。肩板の後縁は黄白色。下唇鬚は黄色にして、第一節の先端の背面及び側面、第二節及び第三節下面の基部及び先端に近き部分には黒褐鱗を有す。複眼は黒色又は暗褐色。觸角は暗褐にして黄白鱗を被り一見輪狀に見ゆれども、白鱗は縦に連續して縱線をなし、基節は黄白、内側に暗褐の縱條を有す。

前肢は基節は黒褐色にして僅かに黄白鱗を混じ、腿節は内側は黒色、基部より先端まで白色の縱條を裝ひ、外側は黄白色。脛節は後方は黄白、前方は黒色にして、基部には黄白の縱條を有す。跗節は黄白色、前方には黒色の縱線を有す。中肢は黄白、内側に黒色の二條縱

走し、脛節は外方は黄白、中央に黒色の縦條を有し、内側は黒色、先端も黒色。脛節距根は黒褐色、距の内方は黒色にして外方は黄白色を呈す。跗節は基部は黄白、中央より先端までは黄褐、下面には暗褐縦走す。後肢は腿節、脛節は黄白、脛節の $\frac{1}{2}$ の處及び各脛節距根は黒褐、距は前方は何れも黒褐、後方は黄白、但し中央距の内側に存するものは基部半分は後方も黒褐色を呈す。脛節の上面基部より $\frac{1}{2}$ までは褐色を帶ぶ。跗節は帶褐黄白色、上面に於ては第一節の基部及び先端は暗褐、其他の各節の基部は暗褐色なり。

前翅は中央より稍基部に近きところにて二分し、前片は殆んど同じ幅にして先端に於て次第に細くなり、後片は次第に太くなり、先端に近く最も廣く、後縁は彎曲して翅端は細くなる。黄褐色なり。前縁は暗褐鱗と白鱗とを混ず。基部に近く一黒點を有し、翅室の $\frac{1}{2}$ 位の處にも黒點を有す。横脈上に二黒點を有す。前片 $\frac{1}{2}$ の部分に黄白帶を有し、前縁に於ては幅狭く後縁に於ては幅廣し。 $\frac{1}{2}$ の部分にも斜の黄白帶を有す。之等は後片に於ても認める事を得。後片の先端に近き彎曲せる部分は黒線に依りて縁取らる。前縁の縁毛は暗褐色、但し黄白帶の部分のものは黄白色なり。前片の先端の縁毛は白色、その前方は暗褐色なり。其他の縁毛は褐色を帶べる橙黄色、後縁に於ては縁毛中に黒褐色の鱗片を混ぜれども、二黄白帶の部分には白色の鱗片を混ず。先端に近く黒點を有す。後片は帶褐橙黄色。前縁には中央位及び先端に近く黒褐鱗を混ず。即ち黄白帶の部分の縁毛中には黒褐鱗を混ぜず黄白鱗を混ず。先端より後方に出づる縁毛は暗褐色を呈し、彎曲せる後縁の部分の縁毛は暗褐色にして基部のみ橙黄色なり。後縁二黄白帶間の縁毛は暗褐色にして黒褐鱗を混じ、橙黄色の縁毛中には黄白鱗を混ず。前翅後縁の中央に近く縁毛中に數個の黒褐鱗を有す。前翅基部に近き後縁は殆んど白色を呈す。後翅は三分し、第一は $\frac{1}{2}$ より、第三枝は基部に近く分岐し各片は線狀に細し。暗褐色を呈し、第三片は中央より基部に向ひ次第に薄くなり僅かに淡褐色を帶べる白色。縁毛は灰褐色を帶べる橙黄色、但し中片の中央の縁毛は橙黄色なり。第三片の前縁には基部より先端まで縁毛中に黒褐鱗を有し、 $\frac{1}{2}$ より先端に至るまでのものが最も大なり。後縁 $\frac{1}{2}$ 迄には縁毛中に細長き白鱗を混じ、其間に黒鱗を混ず。又 $\frac{1}{2}$ の處に大なる黒鱗塊を有し又先端に小黑鱗塊を有す。

腹部は淡黄褐色にして白鱗を混じ、背面に暗褐色の縦條を有し。各節の後方に於て幅廣く、又背側面に斜の暗褐帶を有し、之れは中央より後方に於て太く顯著なり。腹面は暗褐色にして黄白斑を有す。

測定。雌雄各 10 頭宛の測定の結果は次表の如し。 單位は mm.

		雄		雌	
		體 長	翅 張	體 長	翅 張
平	均	6.43	16.28	7.23	17.05
最	大	7.50	17.50	8.25	18.50
最	小	5.50	14.50	6.25	14.75

食餌植物。 本邦に於ては名和氏 (29) に依りフジマメの害蟲として、又武内氏 (33) はインゲンマメの害蟲として報じ、最近高橋氏 (32) によりユフガホをも食するこゝを報ぜられたり。外國に於ては FLETCHER (3) は印度に於てフジマメ、ヘウタン其他の害蟲たるこゝを報ぜり。

産 地——本州：小郡 (周防) 1♂, 15. xi. 1930 [堀]。

對馬：嚴原, 4♂♂, 29. ix. 1930 [藤野, 堀]。

九州：平山 (筑前) 1♀, 13. x. 1930 [江崎, 堀]；福岡 (筑前) 1♀, 30. v. 192 [藤野]；1♀, 15. vii. 1929 [堀]；1♂, 6. viii. 1929 [栗崎]；1♂, 8. viii. 1930 [隼瀨]；2♂♂, 7♀♀, 22—24. viii. 1929 [堀]；1♀, 1. ix. 1930 [隼瀨]；31♂♂, 55♀♀, 5—30. ix. 1929—30 [堀]；5♂♂, 10♀♀, 3. x. 1930 [堀]；1♂, 1♀, 9. x. 1930 [堀]。

分 布——日本 [樺太⁶⁾ (松村)? 北海道 (松村), 本州, 四國 (武内), 九州, 對馬, 臺灣? (野平)]; Africa (中部及び南部); India (南部); Ceylon; Burma; Java; Sumatra; Philippines; New Guinea; Australia; New Hebrides; Tongas; Seychelles; Mauritius; W. Indies.

ZELLER の記載せし標本の type locality は Abyssinia の Kafferland 産なり。

6) 松村博士 (14) に依り "*Alucita (Acipitila) vilis* BUTLER マダラトリバ" として樺太 (Solowiyofka) より記録されたるものは本種なるべし。然れども其後同博士はフジマメトリバの分布區域に樺太を入られざるは如何なる理由なるか判然せず。野平博士 (27) は松村博士に従ひ樺太を挙げられしなるべし。松村博士が Siberia を挙げられたるは實はフジマメトリバの産地にあらずして、*Psephenophorus vilis* BUTLER フキトリバの産地に當るものなるべし。

参 考 文 献

1. BARNES, W. and LINDSEY, A. W. (1921)—The Pterophoridae of America, North of Mexico: Contributions of the Natural History of North America, vol. iv, no. 4, p. 281-478, Pl. xli-liv. (特に p. 361-362).
2. BUTLER, A. G. (1881)—Descriptions of new species and genera of Heterocerous Lepidoptera from Japan: Trans. Ent. Soc. Lond., 1881, p. 1-23, 171-200, 401-426, 579-600. (特に p. 594).
3. FLETCHER, T. B. (1914)—Some South Indian Insects and other animals of importance. (特に p. 443-444. fig. 320).
4. — (1926)—On WALKER's Types of Plume-moths in the National Collection: Redescriptions and Notes: Trans. Ent. Soc. Lond., 1925, Pt. 3-4, p. 539. (特に p. 611, 623, 609).
5. HOFMANN, O. (1895)—Die deutschen Pterophorinen, systematisch und biologisch bearbeitet: Berichte des naturwissenschaftlichen Vereines zu Regensburg, 1894/95, Heft 5, p. 1-195, 3 Taf. (特に p. 154-155).
6. HORI, H. and UMEMO, A. (1930)—Moths of the island of Yakushima: Mushi (Fukuoka), vol. iii, p. 6-24. (特に p. 9).
7. MARUMO, N. (1923)—List of Lepidoptera of the Islands Tanegashima and Yakushima: Journ. Coll. Agric. Imp. Univ. Tokyo, vol. viii, no. 2, p. 135-205, Pl. 3. (特に p. 197-198, 205, Pl. 3, fig. 10).
8. MARUMO, N. (1923)—實用昆蟲學要義, (特に p. 283).
9. — (1925)—日本産昆蟲類科の検索表, (特に p. 113).
10. MATSUMURA, S. (1905)—日本昆蟲總目錄, vol. i, p. 221.
11. — (1905)—最近昆蟲學, p. 215. fig. 139.
12. — (1906)—日本害蟲目錄, p. 29.
13. — (1907)—昆蟲分類學, 上卷, p. 216, fig. 253.
14. — (1911)—Erster Beitrag zur Insekten Fauna von Sachalin: Journ. Coll. Agric. Tohoku Imp. Univ., vol. iv, Pt. I. (特に p. 58).
15. — (1920)—大日本害蟲全書, 前編, p. 488, fig. 173.
16. — (1920)—應用昆蟲學, 前編, (第二版), p. 530, Pl. 20, fig. 23.
17. — (1929)—昆蟲學概論, p. 257, fig. 60.
18. MEYRICK, E. (1886)—On the classification of the Pterophoridae: Trans. Ent. Soc. Lond., p. 1-21. (特に p. 8, 17-18).
19. MEYRICK, E. (1890)—On the classification of the Pyralidina of the European fauna: Trans. Ent. Soc. Lond., 1890, p. 429-491. (特に p. 488-489).
20. — (1895)—Handbook of British Lepidoptera. (特に p. 437).
21. — (1908)—Notes and Descriptions of Pterophoridae and Orneodidae: Trans. Ent. Soc. Lond., 1907, p. 471-511. (特に p. 485, 491-492).
22. — (1910)—Genera Insectorum, C, (特に p. 6, 14, fig. 3).
23. — (1913)—WAGNER's Lepidopterorum Catalogus, Pars. 17, (特に p. 5, 20-21).
24. — (1927)—Revised Handbook of British Lepidoptera. (特に p. 455).
25. — (1930)—Microlepidoptera of Mauritius: Trans. Ent. Soc. Lond., 1930, p. 309-323. (特に p. 309).
26. NAGANO, K. (1905)—日本鱗翅類汎論, p. 260.

27. NOHIRA, A. (1916)—日本産鳥羽蛾科の研究, (I) 既知種目録: 昆蟲學雜誌 (京都), vol. ii, no. 1, p. 37-38. (特に p. 38).
28. — (1917)—日本産鳥羽蛾科の研究, (II) 概説及び屬の記載: 昆蟲學雜誌 (京都), vol. iii, no. 2 p. 61-77. (特に p. 68-71, 75).
29. NAWA, Y. (1898)—フヂマメトリバテフに就て: 昆蟲世界, vol. ii, p. 454-455, Pl. II.
30. REBEL, H. (1901)—Catalog der Lepidopteren des palaearctischen Faunengebietes, p. 74.
31. SWINHOE, C. C. and COTES, E. C. (1889)—A catalogue of the Moths of India, Pt. v, Pyrales. (特に p. 668).
32. TAKAHASHI, S. (1928)—蔬菜害虫各論. (特に p. 241-244, 420-421).
33. TAKENOUCHI, M. (1902)—土佐産の蟲報 (第二の二): 昆蟲世界, vol. vi, p. 116-119.
34. TUTT, J. W. (1905)—Types of the genera of the Agdistid, Alucitid and Orneodid plume moths: Ent. Rec., xvii, p. 34-37.
35. WALLENGREN, H. D. J. (1881)—Genera nova Tinearum: Ent. Tidsk., Bd. ii, Häft 2, p. 94-97. (特に p. 96-97).
36. WALSINGHAM, T. L. (1881)—On the Tortricidae, Tineidae, and Pterophoridae of South Africa: Trans. Ent. Soc. Lond., p. 219-288. (特に p. 279).
37. YANO, S. (1910)—トリバガに就きて: 博物之友, vol. x, p. 15.
38. ZELLER, C. P. (1852)—Revision der Pterophoriden: Linnaea Entom., Tom vi, p. 319-416. (特に p. 348-349).

STUDIES ON THE JAPANESE PTEROPHORIDAE

(I) On the genera *Pselnophorus* and *Sphenarches*

(Résumé)

Hiroshi HORI

The present paper is a part of my studies on the Japanese Pterophoridae, and three species belonging to the genera *Pselnophorus* and *Sphenarches* are revised and redescribed in it. According to my careful examination, one of these species, *Sphenarches caffer* ZELLER, has hitherto been apparently misidentified as "*Alucita vilis*" by many Japanese authors. The discussion given in the present paper is summarized in the following list.

Genus *Pselnophorus* WALLENGREN. (1881)

Two species occur in Japan.

1. *Pselnophorus vilis* BUTLER, nec MATSUMURA et auct.

Habitat: Hokkaido, Honshu, Kyushu, Yakushima.

Food plants: *Ligularia Tussilagineana*, BURM., *Petasites japonica*, MIQ.

2. *Pselnophorus japonicus* MARUMO.

Habitat: Honshu, Kyushu, Yakushima, Tanegashima.

Originally described by MARUMO from Tanegashima.

Food plant: Unknown.

Genus *Sphenarches* MEYRICK. (1886)

According to MEYRICK's original description (18) the vein III in the forewings is absent, but in reality, the veins III and IV are stalked as stated by himself afterwards [MEYRICK (22)]. Also in the hind-wings the vein III is present, but "not absent" as stated by MEYRICK (18, 22), here the veins III and IV are again stalked, as stated by NOHIRA (28).

A single species is known to occur in Japan.

Sphenarches caffer ZELLER.

= *Alucita (Aciptilia) vilis* MATSUMURA (11, 12, 13, 14, 15, 16, 17),

MARUMO (8), TAKAHASHI (32) etc., nec BUTLER, syn. nov.

Habitat: Hokkaido, Honshu, Shikoku, Kyushu, Tsushima, "Formosa?" (According to NOHIRA).

Food plants: *Dolichos Lablab*, L., *Phaseolus vulgaris*, L., *Lagenaria vulgaris*, SER. forma.

圖版解説

第九圖版

第一圖. *Pselnophorus japonicus* MARUMO. シロフクロトリバ. ♀.

第二圖. 同上, 脈相.

第三圖. *Pselnophorus vilis* BUTLER. フキトリバ. ♂.

第四圖. 同上, 脈相.

第五圖. *Sphenarches caffer* ZELLER. フジマメトリバ. ♀.

第六圖. 同上, 脈相.

第十圖版

Male genitalia. 雄交尾器.

第一圖. *Pselnophorus vilis* BUTLER. フキトリバ.

第二圖. 同上, 側面.

第三圖. *Pselnophorus japonicus* MARUMO. シロフクロトリバ.

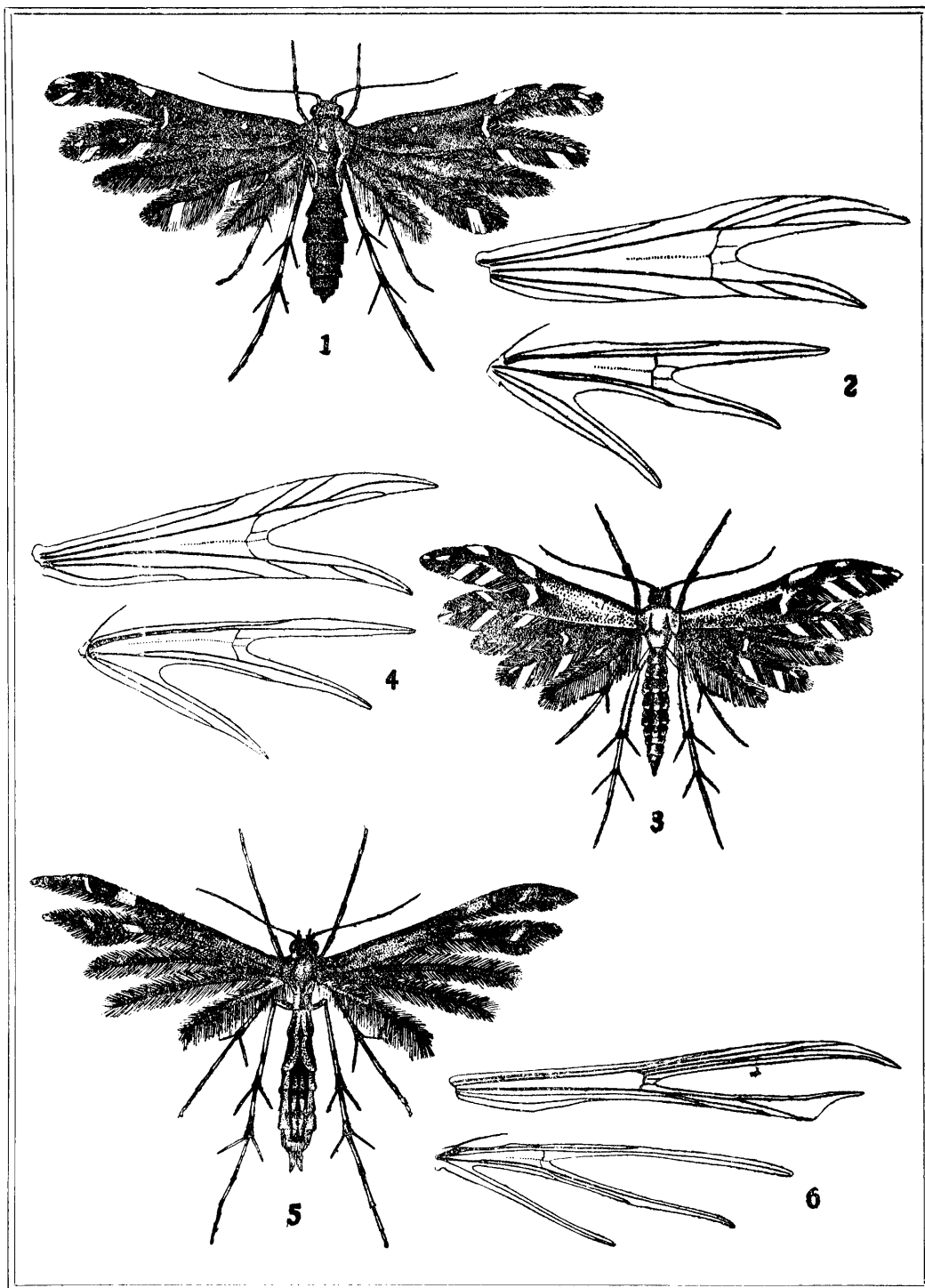
第四圖. 同上, 背面.

第五圖. 同上, 側面.

第六圖. *Sphenarches caffer* ZELLER. フジマメトリバ.

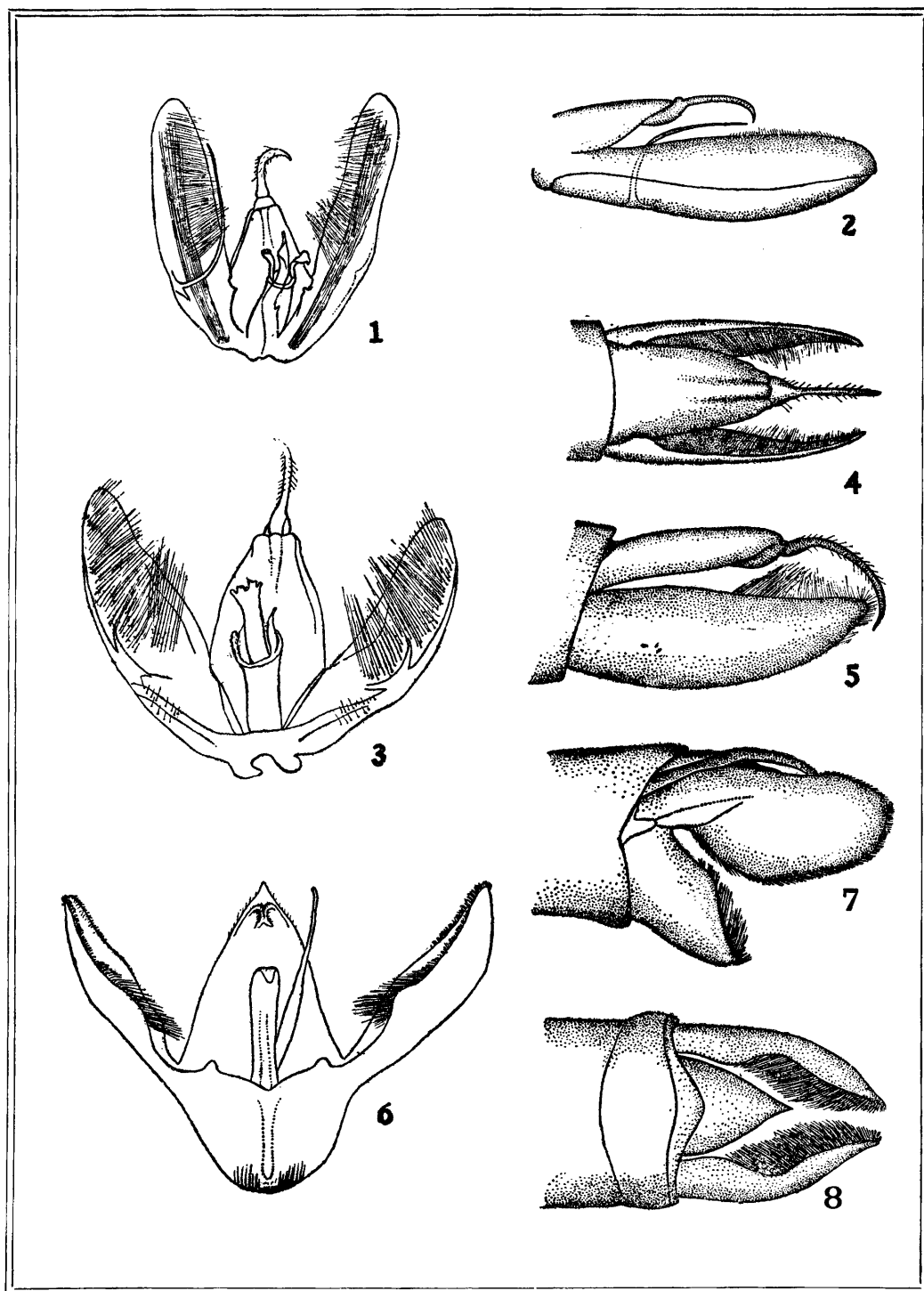
第七圖. 同上, 側面.

第八圖. 同上, 背面.



堀：鳥羽蛾科

HORI: Pterophoridae



堀：烏羽蛾科

HORI: Pterophoridae